

卒業論文・卒業研究の要旨

論文題目	ヨーロッパ観光－歴史、展開および現代における課題
氏名	細野 海翔
メジャー	文化人類学
マイナー	多文化共生
<p>(要旨)</p> <p>本研究は、ヨーロッパにおける観光の歴史的展開と現代的課題を分析することを通じて、観光におけるの有益な効果と悪影響の二観点を明らかにし、日本の今後に向けた観光政策への示唆を導くことが目的となっている。</p> <p>まず、古代ローマ期の都市形成から中世の商業都市の発展、産業革命期の社会変容を経て、近代に観光が誕生し大衆化していった過程を整理した。そのなかでも、大衆化を促進したスイスにおける観光の大衆化や観光学の制度化は、観光社会的制度として位置づける重要な転換点であった。</p> <p>次に、現代ヨーロッパに顕在化するオーバーツーリズム問題を取り上げ、アイスランド、バルセロナ、ベルリンの事例を検討した。各都市では観光振興が経済成長をもたらす一方、住民生活の圧迫、地価上昇、環境負荷などの問題が生じている。これに対し、観光客の分散、宿泊規制、観光税の導入など、量から質への政策転換が進められているが、課題は形を変えて残存している。</p> <p>さらに、人新世の視点から観光を再検討し、ツーリズムが自然環境の改変や温室効果ガス排出の増大など地球規模の環境問題と深く関わっていることを論じた。またテーマパークにおいて観光は経済的・文化的意義を持つ不可欠な活動である一方で、持続可能性との両立が強く求められている点では矛盾が起きている。</p> <p>以上のヨーロッパにおける観光の諸相に基づいて日本の観光における問題を考察すると、今後の日本の観光政策においては、経済効果のみを追求するのではなく、地域社会・環境・住民生活との調和を重視した持続可能な観光への転換が不可欠である。ヨーロッパの経験を過去と未来の両面から捉え直すことは、日本がこれから直面する課題を先取りし、より持続可能な観光のあり方を模索するための重要な手がかりとなるであろう。</p>	
<p>(指導教員の推薦のコメント) 本論考は古代ローマから近代に到る都市の形成、観光の誕生と大衆化という歴史的展開を踏まえつつ、オーバーツーリズムなど現代における様々な要素に焦点をあてヨーロッパにおける観光の諸相と問題を検証したものである。各章において、現代ヨーロッパ観光の課題と政策、またテーマパークなど多様な現状とこれらに基づく観光の概念について、多岐にわたる資料を調査し自らの考えを構築している。現代日本の観光政策への関心を起点としながらも観光の本質と課題をヨーロッパにおける歴史と諸相から考察した学究的姿勢と多角的検証、これらに基づく明晰な見解の構築において、これを優秀卒業論文として推薦するものである。</p>	